

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第 10 号 2018 年 10 月

819-0395

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学経済学部 日本応用経済学会事務局

TEL/FAX : 080(5321)7299

E-mail: jaae@econ.kyushu-u.ac.jp

<http://www.jaae.org/>

目次

会長あいさつ

理事会報告

学会誌編集委員会報告

学会賞選考委員会

国際交流委員会

2018 年度秋季大会のご案内

事務局だより

2017 年度決算資料

2018 年度予算資料

I. 日本応用経済学会学会長就任の挨拶

2018 年 9 月
日本応用経済学会
会長 田中廣滋

研究活動の中核となる会員の皆様が学会全体の研究力の向上のために献身的に活動を継続することで、学術社会において本学会はその存在感が高められていると感じます。特に、会員の皆様のたゆまぬ努力に基づく学会全体の研究力の質的向上が学会の発展の推進力となります。私をはじめとする理事会のメンバーは会員の皆様の研究の向上に役立つ取り組みを継続してまいります。

これまで、数年の取組みでは学会が成長期にあったことで、会員数の増加のための活動と学会の発展を支える事務局体制の整備が重点的に推進されてきました。これは、学会のインフラともいえるもので、学会の持続可能性の基盤ともいえるものです。ところで、会員が研究活動の場として学会を選ぶとき、その情報発信力は重要なポイントになります。現在、情報通信に関する技術革新は経済活動だけでなく、社会のシステム全体を大きく変えようとしています。しかも、注意すべきことはこの流れが非常に強くて速いことです。数年のうちに研究活動の仕方自体が、変わってしまう可能性すら予感されます。この危機感あるいは期待感には私だけでなく、多くの会員の皆様が共有されることだと思います。具体的には、世界各地でこの数年創刊されているオープンアクセスのジャーナルは査読制度を確保することで、伝統的なジャーナルを席巻する勢いです。この大きな潮流の中で、本学会はその存在価値を高める工夫をすることが必要になります。海外からの投稿に対して掲載料の有料化することとオープンにすることも、改革の論点になると考えられます。

現在、各会員が研究の分野と研究を支える技術の両面からイノベーションを体験することになるが、適正な対応をするのには知識の共有が必要になる。ここでも、学会における会員の成功体験は研究の大きな支えとなってくる。本学会は、研究環境の変革期において、会員に正しい情報を提供する羅針盤の役割を果たせるようにしたいと思います。

II. 2017 年度理事会報告（秋）

【2017 年度日本応用経済学会秋季大会理事会報告】

日時：11 月 26 日（土） 10 時 30 分～

会場 慶応義塾大学三田キャンパス 研究室棟 1 階 AB 会議室

出席者：成生，田中，福重，大住，多和田，秋山，細江，坂上，秋本，永星，大川，木原，慶田，中村，中山，林，堀，山田，内藤，長岡，柳瀬，渋澤，伊ヶ崎，大内田，瀧井，野崎

開催校挨拶

理事会開催前に会長より挨拶があり，続けて開催校の藤田康範先生より挨拶があった。

1. 新入会員，退会の承認が行われた。
2. 国際交流の件について，KEBA の大会日程については今後調整することとなった。
3. 編集委員会報告（資料 3）
資料に基づき，編集状況について説明が行われた。
林委員長より新体制についての報告があった。
4. 著作賞の選考方法について（資料 5）
資料 5 に基づき，多和田委員長より著作賞の選考方法や推薦書について提案があり，承認された。
5. 学会賞の選考について
例年通りに行うことの報告が行われた
6. 来年度春季大会開催校について
久留米大学 6 月 17 日，18 日に開催されることが理事会で承認された。
7. 来年度春季大会プログラム委員長について
打診中であることが報告された
8. 来年度秋季大会開催校について
打診中について打診中であることが報告された。
10. その他
今後の国際交流の参加者について議論があった。

来年度春季大会開催校を代表して秋本耕二先生より挨拶が行われた。

III. 2018 年度理事会報告（春）

【2018 年度日本応用経済学会春季大会理事会報告】

日時：2018 年 6 月 23 日（土） 10:30～

会場：京都大学吉田キャンパス 共北 11 講義室

出席者：成生，田中，焼田，福重，大住，多和田，藪田，永星，細江，坂上，大川，木原，慶田，中村，中山，小川，藤田，内藤，洪澤，大内田，野崎，長島（監事）

議事

開催校挨拶

開催校の依田高典実行委員長より挨拶があった。

議題：

1. 入会・退会員承認

資料 1 に基づき，入退会が承認された。また，今後の会員制度について，終身会員制度などを早急に検討することとなった。

2. 平成 29 年度会計報告

永星常務理事より資料 2 に基づいて説明が行われた。長島監事より適正に処理されていることを確認したことが報告された。

3. 平成 30 年度予算（資料 3）

永星常務理事より資料 2 に基づいて，説明が行われ，承認された。

4. 学会費改訂の件

細江常務理事より資料 4 に基づき，説明が行われた。今回の改定は，正会員のみ 2,000 円増加の 10,000 円とし，院生会員は据え置きとし，来年度からの実施が提案され，承認された。

5. 2017 年度学会賞選考報告

多和田選考委員長より資料 5-1 に基づいて説明があり，承認された

6. 学会誌編集の件

小川副委員長より，資料 6-1 に基づき学会誌編集状況の説明が行われた。次に昨年の第 2 回理事会にて学会誌の今後について編集委員会からの提議についての確認を資料 6-2 に基づいて説明があり，議論の結果，詳細についてはできるだけ早めに示したいとのことであった。その他については継続審議となった。

7. 国際交流について

大住国際交流委員長より，派遣実績について資料 7 に基づき説明が行われた。

8. 役員改選の件

会長，副会長についての提案があり，会長に田中廣滋氏（中央大学）が承認された。副会長に焼田党氏の再任，ならびに藪田雅弘氏が承認された。

別紙資料に基づき，次期理事の提案が行われた。一部，未修正点があったため，それについて確認が行われた。修正点を除き，承認された。

新常務理事，新理事（2018 年 6 月～2020 年 6 月）は以下の通り。（下線は新任者）

常務理事：

福重元嗣（大阪大学），成生達彦（同志社大学），多和田眞（愛知学院大学），永星浩一*（福岡大学），坂上智哉（熊本学園大学）**，細江守紀**（熊本学園大学），秋本耕二（久留米大学）
*財務担当**総務担当

理事：

青木玲子（公正取引委員会），大川隆夫（立命館大学），林田実（北九州市立大学），松波淳也（法政大学），大住圭介（九州大学名誉教授），瀧井貞行（西南学院大学），林正義（東京大学），藤田康範（慶應義塾大学），大内田康德（広島大学），今泉博国（福岡大学），木原隆司（獨協大学），洪澤博幸（豊橋技術科学大学），内山敏典（九州産業大学），近藤健児（中京大学），慶田收（熊本学園大学），福澤勝彦（長崎大学），柳川範之（東京大学），小川光（東京大学），堀宣昭（九

州大学), 三浦功 (九州大学), 奥野 (藤原) 正寛 (武蔵野大学), 中村 保 (神戸大学), 渡辺淳一 (福岡大学), 中山恵子 (中京大学), 伊ヶ崎大理 (日本女子大学), 内藤徹 (同志社大学), 柳瀬明彦 (名古屋大学), 長岡貞男 (東京経済大学), 野崎竜太郎 (久留米大学), 瀧本太郎 (九州大学)

監事:

中村大輔 (福岡女子大学)

9. 委員改選の件

別紙資料に基づき, 次期各委員の提案が行われた。一部, 未修正点があったため, それについて確認が行われた。修正点を除き, 承認された。

報告

1. 次回の大会開催校挨拶

大学文化大学の池田剛士氏より挨拶があり, 10月27日, 28日に渡り大東文化大学板橋キャンパスで開催される旨が報告された。

2. 来年以降の大会開催

春季大会: 南山大学,

秋季大会: 未定(東日本方面で募集中)

との報告があった。ともに日程については未定である。

3. 韓国学会との学術交流 10 周年記念英文論文について(資料8)

細江常務理事より資料8に基づいて説明が行われた。

4. その他

IV. 「応用経済学研究」編集委員会報告

「応用経済学編集委員会」委員長

林正義 (東京大学)¹

1. 第12巻の編集について

第12巻については, 2019年3月に刊行の予定である。2018年6月現在での状況については, 以下の通りである。

採択決定 3本

査読中 2本 [うち初回投稿審査中 1本, R&R (1回目) 1本]

修正依頼に2年以上返事無し 3本

差戻 (再投稿可) 2本

不採択決定 4本

年度内刊行を前提とすると, 3~5本程度の掲載数になることが予想される。

2. その他

2017年の秋大会で提起した「応用経済学研究」の編集・出版にかかわる諸問題については以下の点を報告かつ再度の要請を行った。

① 誌面構成変更予定の報告

誌面を読みやすくするために, 邦語・英語論文双方とも, 一行の文字数・単語数を少なくする方向で検討している。また, 英語論文に限っては同時に海外誌の誌面に近いもの (例えば American Economic Reviews のそれ) にタイプセットの変更し, 秋大会の理事会時には具体的なサンプルを準備する予定と報告した。

② 投稿料廃止の要請

編集事務の軽減, 投稿数の増加を期待し, 投稿料の廃止を再度要請した。

③ 投稿事務外注の要請

学会事務を外注する場合には編集にかかわる事務も同時に外注できるよう要請した。

④ 電子化・オープンジャーナル化の要請

自己の論文が学会員・非学会員を問わず多くの研究者・学生によって読まれ, かつ引用されることが研究者にとって最も重要であるという前提のもと, 掲載論文を J-Stage などのウェブ上のプラットフォームで開示し, 非会員を含む読者によるアクセスを可能にすることを要請した。

V. 2017 年度学会賞について

会賞選考委員長

多和田 眞 (愛知学院大学)

学

¹ 委員長の林正義は理事会欠席のため, 報告は副委員長の小川光から報告がなされた。

学会賞 松島法明氏（大阪大学）

（授賞理由）

松島法明氏は、寡占企業間の競争を中心に、公企業とその民営化、空間的競争、製品差別化や垂直的取引構造など、産業組織論やマーケティングの経済分析に関わるさまざまな分野の研究で大きな学術的貢献を為してきている。その研究成果は Journal of Public Economics, Journal of Industrial Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Economic Behavior & Organization, Regional Science and Urban Economics, Canadian Journal of Economics, Economic Inquiry, Japanese Economic Review などの査読付きの国際的学術誌に 50 本以上の論文が掲載され、2012 年以降においても約 30 編の掲載論文がある。また、2013 年には、第 9 回日本学術振興会賞（日本学術振興会）を受賞している。

論文賞 該当者なし

奨励賞 岡本千草氏（東京大学）

対象論文

単著 「企業間と産学間の共同研究における地理的近接性」応用経済学研究第 11 巻掲載

（授賞理由）

対象論文は、空間的近接性が特許開発における共同研究の起こりやすさにどう影響するかを分析したものである。「距離」を重要なファクターとして分析する都市・地域経済学の基本的知見に対して新しい角度からアプローチを行い、それを豊かにする結果が得られている。共同研究はどういう主体がなぜ起こすのか、何が障壁となって起こりにくいのか、といった問いに対して答えることは、集積の経済やイノベーションのメカニズムを解く明かすことになるだけではなく、広く政策的含意を持つ重要な取り組みである。本研究はこうした大きな課題に、日本の特許データを用いて取り組み、欧米を対象とした先行研究とは異なる新しい知見を導くことに成功している。分析手法は標準的なカーネル密度アプローチを踏襲し、その応用可能性を切り拓く論文として高く評価できる。以上により、今後の応用経済学会での活躍も大いに期待できる。

著作賞 中平千彦氏（明海大学）・薮田雅弘氏（中央大学）

対象著書 教科書・啓蒙書 中平千彦・薮田雅弘著「観光経済学の基礎講義」出版社：九州大学出版会、発行年月：2017 年 7 月

（授賞理由）

本書は、観光の諸事象を例題としてマクロ経済学、ミクロ経済学の枠組みを学ぶという観点と、マクロ経済学、ミクロ経済学の道具を用いて観光の諸事象を考えるとという観点の両方を目指したテキストである。執筆者が多いため全体の統一感に欠けるのではないかと。経済学の初学者にとっては説明が不足している点がある、観光産業を扱う章がほしい、など指摘すべき点もあるが、経済学の理論と観光を結びつけた、これまでに無い、特色あるテキストとなっている。観光を題材にして経済学の基礎と応用がわかるようになっている野心的な著書であり、その目的は十分達成していると結論づけられる。

VI. 国際交流委員会報告

国際交流委員会

（前国際交流委員会委員長：大住圭介）

1. 韓国の学会（KEBA, KAAE）との国際交流

（2017 年度 KAAE 大会）

4 月 28 日～29 日に、Ramada Gangwon Sokcho Hotel（韓国江原道ソクチョ市）で開催された。日本応用経済学会からは、報告者として、中泉拓也先生（関東学院大学）、池田康弘先生（熊本大学）、小川健先生（専修大学）が参加し、座長として、中村保先生（神戸大学）が参加した。

（2017 年度 KEBA 大会）

11 月 17（金）、18（土）に、啓明大学校（Keimyung Univ. Daegu）

で開催された。日本応用経済学会からは、焼田党先生（南山大学）、眞田英明・三浦功先生（九州大学）、大住康之（兵庫県立大学）が参加した。

(2018 年度 KAAE 大会)

4 月 20 日 (金) に、梨花女子大学校 (ソウル市) で開催された。日本応用経済学会からは、Sangho Kim 先生 (立命館アジア太平洋大学)、焼田党先生 (南山大学)、中泉拓也先生 (関東学院大学)、中村保先生 (神戸大学)、内藤徹先生 (同志社大学) が参加した。

2. 中国数量経済学会との交流の現状

財政的負担の問題もあって、一年ごとに互いの学会に研究者を派遣している。2018 年度の春季大会 (京都大学) に 2 名の中国の研究者が参加予定であったが、実現しなかった。将来的に、中国数量経済学会との交流を持続的に安定的なものにするために、事情を検討して、新国際交流委員長の中村保教授 (神戸大学) と協議し、適切な対応を検討中である。

VII. 2018 年度秋季大会のご案内

2018 年度日本応用経済学会秋季大会は 10 月 27-28 日に大東文化大学の池田剛士先生を大会委員長として準備が進められております。会員の皆様には奮ってご参加のほど、よろしくお願い致します。

VIII. 事務局便り

このニューズレターも第 10 号を数えることになりました。作成担当者も第 1 号の作成時は北海道の大学に勤務しておりましたので、ずいぶんと感慨深いものもあります。今後も会員の皆様に学会の情報を発信していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

今年は台風の当たり年となり、全国各地で大きな被害に見舞われました。まずは、該当の会員の方におかれましてはお見舞い申し上げます。本学会の事務局を置いております九州大学の箱崎キャンパスの経済学部もこの秋から伊都キャンパスに移転致しました。今月末は大東文化大学におきまして 2018 年度日本応用経済学会秋季大会が開催されます。皆様奮ってご参加の程、よろしくお願い致します。

(ニューズレター作成担当 内藤徹 (同志社大学))

* 「訪問！研究室」はお休みいたします。

平成29年度 日本応用経済学会 会計報告
(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)－(a)
繰越金	3,279,395	3,279,395	0
会費収入	3,050,000	3,430,000	380,000
参加料収入	460,000	508,000	48,000
懇親会費収入	150,000	138,000	▲ 12,000
学会誌収入(掲載料)	120,000	30,000	▲ 90,000
学会誌収入(投稿料)		54,000	54,000
利子収入		4	4
久留米大学より		72,622	72,622
東海大学より		96,608	96,608
(収入小計)	3,780,000	4,329,234	
合計	7,059,395	7,608,629	▲ 549,234

現金・預金残高

平成29年度期首	秋山	野崎	小計
郵貯センター	761,359		761,359
郵貯口座	107,423		107,423
福岡銀行		405,410	405,410
現金	2,132,478	▲ 127,275	2,005,203

期首繰越	3,001,260	278,135	3,279,395
------	-----------	---------	-----------

平成29年度期末	小計
郵貯事務センター	2,313,109
郵便貯金口座	977,937
現金	0
福岡銀行	824,860

期末繰越	4,115,906
------	-----------

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)－(b)
通信費	150,000	120,343	29,657
消耗品費	50,000	57,662	▲ 7,662
事務補助費	400,000	144,950	255,050
学会開催補助費	800,000	800,000	0
懇親会補助費	150,000	138,000	12,000
理事会開催補助費	100,000	98,476	1,524
各種委員会開催費	50,000	46,244	3,756
シンポジウム等補助金	250,000	100,000	150,000
学会賞	80,000	80,460	▲ 460
国際交流費	350,000	270,468	79,532
払込手数料	50,000	44,838	5,162
学会誌購入	1,700,000	1,555,200	144,800
雑費	30,000	36,082	▲ 6,082
予備費			
小計	4,160,000	3,492,723	667,277
繰越金		4,115,906	
合計	4,160,000	7,608,629	▲ 3,448,629

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当) 永星 浩一

会計担当幹事

池下 研一郎

会計担当幹事

野崎 竜太郎

監査の結果、上記相違ありません。

監

事

長島 正治

平成30年度 日本応用経済学会 予算
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	4,115,906	
会費収入	3,130,000	(8,000円×360人)+(5,000円×50人)
参加料収入	460,000	2,000円×115人×2回
懇親会費収入	150,000	{(1,000円×5人)+(2,000×35人)}×2回
学会誌収入	120,000	掲載料10,000円×6人+投稿料6,000×10人
利子収入		
(H30収入小計)	3,860,000	
合計	7,975,906	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	200,000	発送数増加、およびヤマト運輸 DM便単価の上昇のため
消耗品費	60,000	
事務補助費	500,000	100,000円×2回+300,000円
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
懇親会補助費	150,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	350,000	2人2泊宿泊費+旅費
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,700,000	
学会webサイト運営費	40,000	
雑費	30,000	
小計	4,320,000	
予備費	3,655,906	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	7,975,906	